序章　沖縄の気候

沖縄地方は近海を黒潮が流れ、暖かい海に囲まれていることもあり、一年を通して温暖な気候である。年間の気温差は小さく、沖縄地方の四季の変化は本土に比べて明瞭ではない。沖縄地方各地の年間降水量は大東島地方を除いて 2,000mm を超え、日本国内では比較的雨が多い地域である（図 1）。

春（3～5 月）は、天気が周期的に変わることが多く、寒気が入り肌寒さを感じる日もあるが、梅雨に向け次第に蒸し暑くなっていく。

沖縄の平年の梅雨入りは 5 月上旬で、梅雨明けは 6 月下旬である。沖縄の梅雨は、強い雨が降ったかと思うと晴間が現れるなど、雨の降り方の変化が激しい。5～6 月の降水量は 300～600mm に達する。

梅雨明け後の夏（6～8 月）は、太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなり、紫外線も強くなる。周りを海に囲まれた海洋性の気候のため、真夏でも極端に暑くなることはなく、猛暑日（日最高気温 35℃以上）になることは稀である。

夏から秋（9～11 月）にかけては、太平洋高気圧の縁を北上する台風の影響を多く受ける（図 2）。台風の勢力は沖縄に近づく頃最も強くなり、移動する速度が遅くなることから、沖縄では長い時間台風の影響を受けることになる。8～9 月の降水量は梅雨期（5～6 月）と同程度の 300～600mm に達する。台風が接近すると大雨、暴風、高波、高潮などによる災害が発生するおそれがあり、交通障害や停電など社会活動に大きな影響を及ぼす。その一方で、恵みの雨をもたらし、海の表層をかき混ぜて海面水温の極端な上昇を抑えるといった効果もある。

秋は、10 月頃までは晴れの日が多く、夏日（日最高気温 25℃以上）となる日も多いが、気温は徐々に下がり始める。11 月を過ぎ、低気圧の通過後に冬型の気圧配置が現れるようになると、大陸からの寒気の影響を受け、曇りの日が増える。

冬（12～2 月）は、大陸の寒気が暖かい東シナ海を通過するときに雲が発生し、曇りや雨の日が多くなる。冬でも日平均気温は 15℃以上と比較的暖かいが、北よりの季節風が強い。

図 3 に、沖縄地方平均（※）の日降水量 100mm 以上及び 1mm 以上の月別日数（1991～2020 年の平年値）を示す。

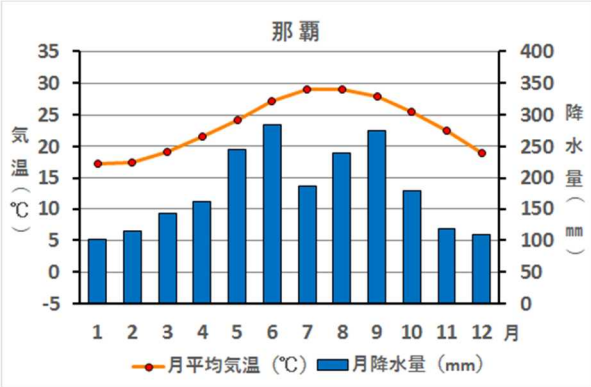
日降水量 100mm 以上の日数は、5～6 月の梅雨期と、8～10 月の台風シーズンに出現数が多くなり、特に 8～9 月は平均的に 2 年に 1 日程度の割合で出現している。

日降水量 1mm 以上の日数は、梅雨期や台風シーズンよりも 1～3 月に多くなっており、平均すると月に 12 日程度の割合で出現している。

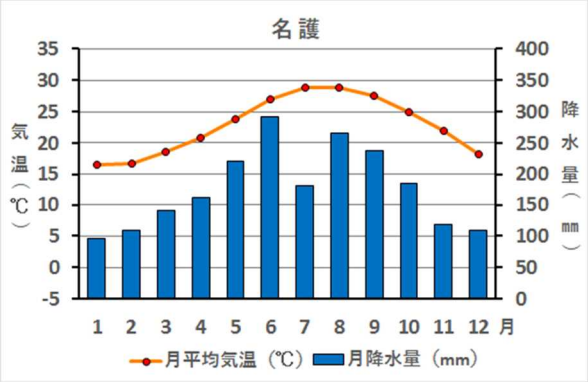
※　沖縄地方平均は、那覇・名護・久米島・宮古島・石垣島・西表島・与那国島の 7 地点平均値。

※ 平年値に関するお知らせ

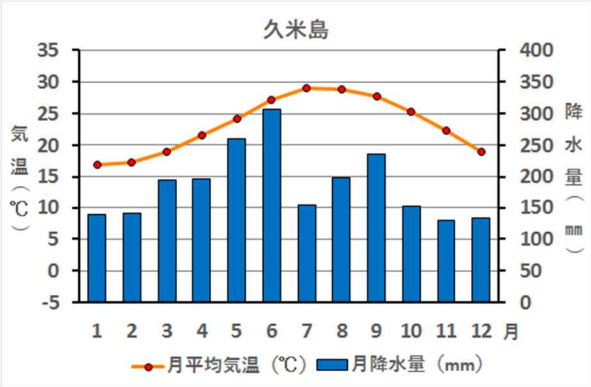
気象庁では、2021（令和 3）年 5 月 19 日から、1991～2020 年の観測値による新しい平年値の使用を開始しました。また同日より、沖縄地方の地域平均平年差（比）は、従来使用していた那覇・久米島・宮古島・石垣島・与那国島の 5 地点に名護・西表島を加え、7 地点の平年差（比）を平均して求めることに変更しました。



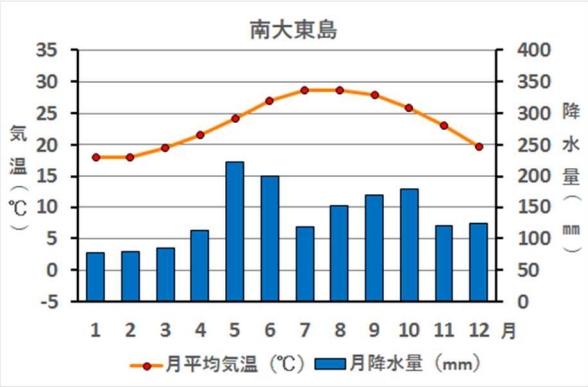
年平均気温：23.3℃　年降水量：2161.0mm



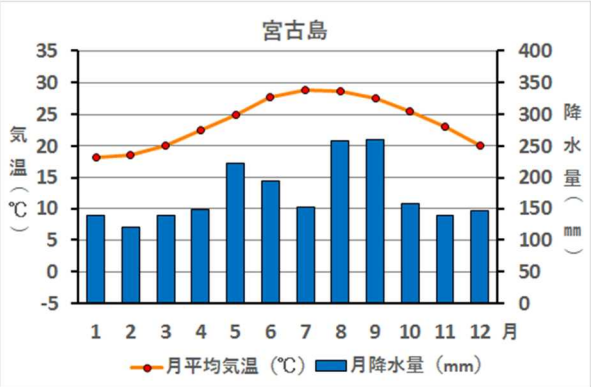
年平均気温：22.8℃　年降水量：2120.7mm



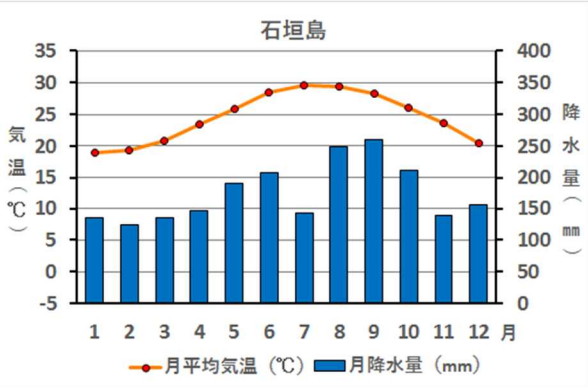
年平均気温：23.2℃　年降水量：2243.5mm



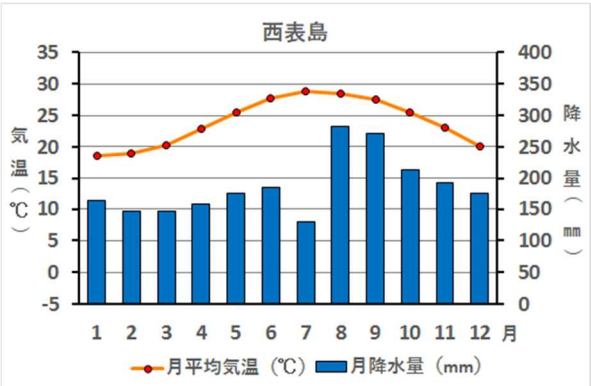
年平均気温：23.5℃　年降水量：1639.3mm



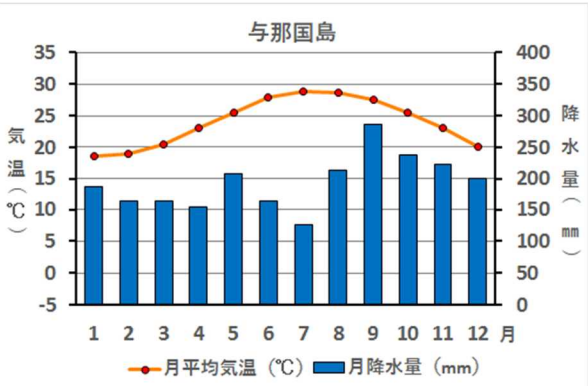
年平均気温：23.8℃　年降水量：2076.0mm



年平均気温：24.5℃　年降水量：2095.5mm



年平均気温：23.9℃　年降水量：2240.0mm



年平均気温：24.0℃　年降水量：2323.0mm

図１　沖縄の主な地点における月平均気温及び月降水量の平年値（統計期間：1991～2020 年）

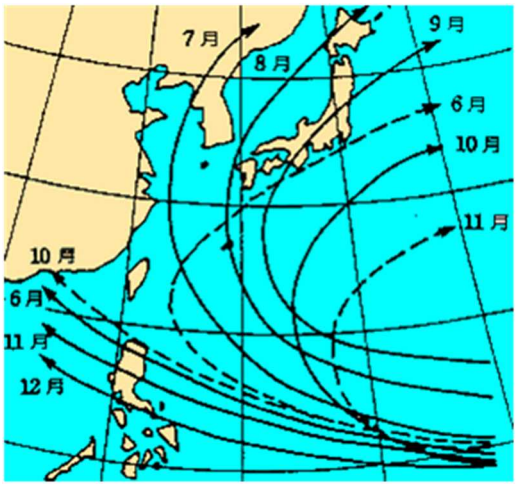


図 2 台風の月別の平均的な経路

（実線は主な経路、破線はそれに準ずる経路）

台風の寿命（台風の発生から熱帯低気圧または温帯低気圧に変わるまでの期間）は 30 年間（1991～2020 年）の平均で 5.2 日ですが、中には昭和 61(1986)年台風第 14 号の 19.25 日という長寿記録もあります。長寿台風は夏に多く、不規則な経路をとる傾向があります。

（気象庁ホームページより。）

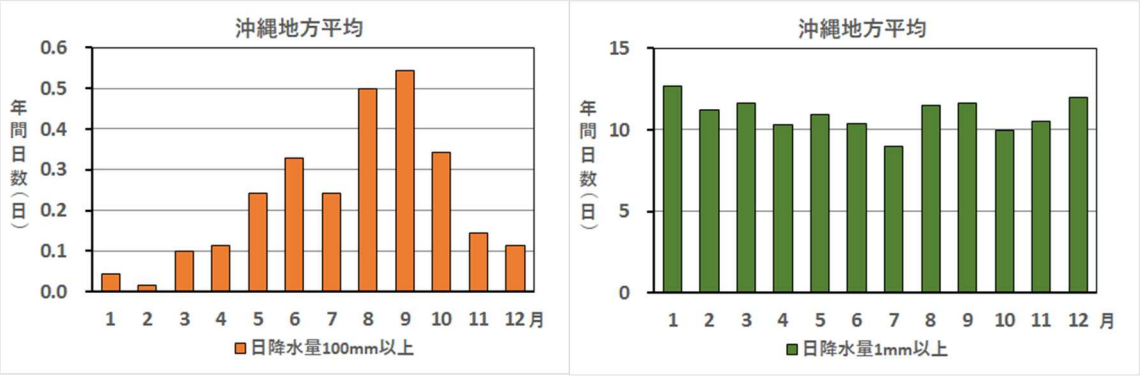


図 3　沖縄地方平均の日降水量 100mm 以上（左）及び日降水量 1mm 以上（右）の月別発生回数の平年値（統計期間：1991～2020 年）